

## 2. 宮津市由良神社文書調査

吉富絵音

### 1. 概要

歴史学科文化遺産学コースでは 2020 年 5 月より、地域貢献型特別研究（ACTR）「海の京都」の拠点・宮津市由良の「船」に関わる遺産の発掘・活用―由良神社を中心に―（研究代表者：岸泰子）を実施している。文化情報学研究室もその一環として、宮津市由良地区の由良神社所蔵文書の調査を継続し、その全貌が明らかになりつつある。本年度調査の日程及び参加者は以下の通りである。なお、前年度同様由良神社社務所をお借りして調査を行った。

- ・ 調査日程 ① 2021 年 8 月 17 日・18 日、② 同 10 月 2 日、③ 同 12 月 5 日
- ・ 参加者 東昇（教員）、滝澤和湖（博士前期課程 1 回生）、正瑞千幸、長谷川巴南（以上 4 回生）、北原美咲、小島千幸、鈴木詩織、藤原あかり、吉富絵音（以上 3 回生）、渡邊幸奈（2 回生）、橋本唯（1 回生）

この 3 回の調査により、10 箱の内ほとんど全ての文書の概要目録番号付与、付箋挟み込み作業を完了した。また写真撮影も進行し、新たに累計 208 点の文書を撮影した。同時に軍艦由良関係文書 22 点を別途中性紙箱に移管し、概要目録の作成と見直しを行った。

### 2. ACTR 成果報告会「由良神社と由良艦」

2021 年 12 月 5 日、由良地区公民館にて、上記調査を踏まえた成果報告会を行った。文化情報学研究室からは 4 回生の正瑞・長谷川により、「近代の由良神社と軍艦由良―歴史学からの視点」をテーマに発表を行った。報告内容としては、まず明治 19 年（1886）由良神社の前身である熊野神社の村社昇格、明治 21 年由良神社への改称を取り上げ、明治期の由良神社の歩みについて紹介した。次に大正 12 年（1923）艦長の懇請より始まる軍艦由良と由良神社の関係に関して、神社による練習艦由良川を含めた軍艦守護と府社昇格という双方向の影響が、所蔵文書や新聞切り抜きにより明らかになった。また、箱 7 の「十五年軍艦祭」と題された綴から、大正 15 年には由良地区で軍艦祭が開催されていたことが分かり、由良神社と軍艦由良が地域ぐるみのより大きな関係性を築いていたことが判明した。

また、報告では掲出されなかった史料に、例えば箱 5 の「昭和十二年十月二十六日竣工 由良神社造営経過並ニ決算報告書」などがある。ここから昭和 11 年（1936）由良神社拝殿の焼失とその復興に対する氏子たちの働きかけが分かり、箱 4 から見つかった当時の新聞切り抜きにも大々的に取り上げられていた。この他にも、由良神社と由良地域の歴史解明の一助となり得る文書が多数発掘されている。